

第47週の発生動向 (2005/11/21 ~ 2005/11/25)

1. 水痘は、上十三保健所管内において**警報**が出されました。
2. 伝染性紅斑は、青森保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
3. 感染性胃腸炎が増加傾向にありますので、今後の動向に注意が必要です。

第47週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ			1	0.06	12	0.86					2	0.33	15	0.23	3
(60) 咽頭結膜熱					1	0.11							1	0.02	-2
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.88	15	1.50	4	0.44			7	1.17			33	0.79	2
(62) 感染性胃腸炎	29	3.63	32	3.20	53	5.89	5	1.00	38	6.33	16	4.00	173	4.12	57
(63) 水痘	18	2.25	18	1.80	13	1.44	14	2.80	48	8.00	14	3.50	125	2.98	57
(64) 手足口病															-6
(65) 伝染性紅斑	16	2.00	13	1.30	5	0.56			4	0.67			38	0.90	19
(66) 突発性発しん	3	0.38	1	0.10	5	0.56			11	1.83	1	0.25	21	0.50	-1
(67) 百日咳															0
(68) 風しん							1	0.20					1	0.02	0
(69) ヘルパンギーナ	1	0.13											1	0.02	-2
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	3	0.38	2	0.20	3	0.33	6	1.20	2	0.33	6	1.50	22	0.52	-2
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	2	1.00	2	0.67			2	2.00	8	4.00			14	1.27	1

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	10	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

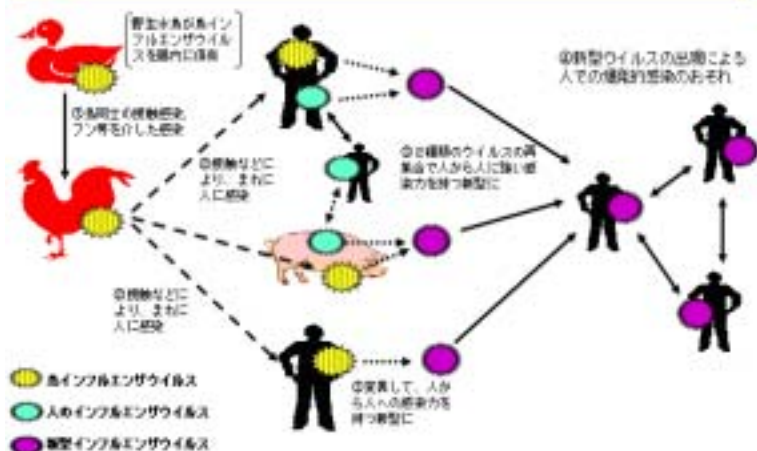
は警報
  は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内: 4人 (17年計 61人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 5人 (17年計 135人)

感染症の啓 高病原性鳥インフルエンザ(その2)

鳥インフルエンザウイルスと新型インフルエンザウイルスの関係



インフルエンザウイルスは、A・B・Cの3型に分かれ、流行的な広がりを見せるのはA型とB型です。

このうちA型インフルエンザウイルスは、粒子表面に赤血球凝集素(HA)とノイラミニダーゼ(NA)という糖蛋白があり、HAには15の亜型が、NAには9つの亜型があります。これらの様々な組み合わせでA型インフルエンザウイルスは、ブタやトリなどにも広く分布しています。

HAとNAは、同一の亜型内でわずかな抗原性を毎年のように変化させるため、A型インフルエンザウイルスは毎年流行します。

さらにA型インフルエンザウイルスは、数年から数10年単位で、突然別の亜型に取って代わり、新型インフルエンザウイルスになることがあります。人々には

新型に対する抗体がないため、大流行となります。鳥インフルエンザの病原性もこのA型インフルエンザウイルスです。

鳥インフルエンザウイルスが新型インフルエンザになるには、2つの仕組みが考えられます。

鳥インフルエンザウイルスがヒトや鳥類の体内で変異し、ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザウイルスになります。ヒトやブタに、ヒトのインフルエンザウイルスと鳥インフルエンザウイルスが同時に感染し、それぞれが混ざり合い、ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザウイルスになります。